

夢を実現するためには？

好きなことや、やりたいことは何となくあるけれど、それを進学や将来の進路と結びつけていいのか不安を感じる読者もいるのではないだろうか。キャリアカウンセラーの藤井佐和子さんに、将来をイメージし、設計するための具体的な方法と考え方に聞いて聞いてみた。

「社会の需要、やれること、やりたいこと」のバランス

これまで学生や社会人などを含め、延べ1万3000人以上の相談実績を誇る藤井佐和子さん。研修やカウンセリングなどを通じて、仕事に関するあらゆる悩みを解決する手助けを行ってきた。高校生を対象とした講演も手がけており、将来のなりたたい自分をイメージして実現する方法など、さまざまな視点でのアドバイスを行っている。

高校生のうちはまだ、将来の夢や目標を具体的な職業、働き方に結びつけて考えることは難しいかもしれない。しかし、藤井さんは「大学で就職活動を始めて、ようやく将来や仕事について

考えるのではなく、大学進学や学部選びについて考える高校生のうちから、大学で学ぶ目的と人生の指針を関連づけて考えてほしい」と話す。

学ぶ目的と、どういう人生を送りたいのかが明確であれば、そのためにどんな努力をすればいいのかも分かる。目的意識の有る無しで大学生活の充実度も変わってくるだろう。

「東京ガールズコレクションを見てイベントの企画や運営に興味を持つ女子もいますし、エコや環境、ボランティアなど時代の流れを反映した世界に興味を示す男子もいます。興味の入り口は何でもいい。それをやるためにはどんな資質や学びが必要なのかを知ることから始めましょう」とアドバイスする。

例えば、海外でボランティア活動を行う場合を考えよう。そこでは医療や土木技術、農業指導など、その国で役に立つ専門的な知識や技能、語学力などが必須だ。それらがなければ助けてくても助けられないからだ。

具体的な職業でなくても、どういう働き方をしたいのかという視点も効果的だ。組織で働きたいのか、最初は就職してもいずれは独立したいのか、その場合は一人か、または起業するのか。そこから公務員や起業家、職人・専門職、フリーランスなど、さまざまな働き方が見えてくるだろう。

自分の興味の方向性が見えてきたら、他人から見た自分の個性や特徴を知ることが重要だ。自分のことは自分が一

番よく分かっていると思ってしまうかもしれないが、他人でなければ気づかない部分もある。大切なのは「自分に対する客観的な視点がないと、私はこういう人です」とアピールする説得力に欠けるのではないだろうか」と藤井さん。

自分の希望する方向性とできることが見えてきたら、それが社会のニーズを満たすものかどうかを考えなければならぬ。いくら気持ちと実力があっても、それが世の中の流れと一致していなければ、職業として成立しないからだ。

大学入学は目的ではなく、あくまでも夢をかなえるための手段。どこで何を学ぶかは、10年後、20年後の自分の姿と大きくかわっているのだ。

